



ぶし う 武士が生まれたのは、なぜなの

ごうぞく ちゆうしん ぶし 豪族を中心に武士がおこる

へいあんじだい ふじわらし せいじ ちほう せいじ
平安時代になって、藤原氏が政治をひとりじめにし、地方の政治をかえりみななかったの
で、政治はみだれました。都から地方にきた役人（国司）の中には、税をとることばかり
を考え、いつも農民がぎせいになっていました。また、盗賊がはびこったりするようにな
ってきました。

ちほう ごうぞく なか じぶん とち まも けらい がな ゆみ ぶげい
そこで、地方の豪族の中には、自分の土地を守るために、家来に刀や弓をもたせ、武芸
にはげむ者が現れたため、平安時代の中ごろから豪族を中心に、武士が生まれました。

ちから げんじ へいし 力のあった源氏と平氏

ぶし あそ いちぞく たす あ たか ぶし みせ
武士は、争いがおこると、一族どうしで助け合って戦いました。やがて武士たちは、都
から地方にくだってきた貴族や、地方の有力者をかしらにむかえて、大きなまとまりをも
つようになりました。なかでも、力のあったのが、源氏と平氏です。

ぶしだん じょうきょう
このような武士団があちこちにでき、いつもにらみあっているような状況がつづきまし
たが、やがて実力のある武士団が、天下を統一するようになるのです。

(監修・保岡 孝之)

